



【特集：小・中学校の統廃合を考える】

— 地域とともに144年 齋川小学校 — 平成30年春・統合

1_昨年6月13日に行った開校記念日朝会で、手作りの年表を前に齋川小の歴史を子どもたちに話す大槻館長 2_月曜日の放課後に行われている「さい遊館」。子どもたちは地域の人たちとブロック遊びやバドミントンなどをして自由に遊んでいる 3_昨年5月22日に開催された「小学校と地域住民との合同運動会」。子どもたちの活躍が地域の人たちに笑顔と元気を与える 4_1月13日、1年生3人を対象に催された「だんご刺し」の体験授業。民生委員児童委員と高砂会のメンバーなど12人が協力して子どもたちと一緒にもちをついてだんごを作り、ミズキに刺すまでの活動を行った

子どもたちを支えている 齋川の大人たち

齋川公民館長を2期6年務める大槻雄一さんは、昭和16年に当時の齋川国民学校に入学した齋川O.B. 公民館長になってからは、毎年開校記念日に手作りの年表を前に子どもたちへ齋川小の歴史を話している。「入学式がなかったのは、開校以来初めてではないかな。とても寂しく残念な気持ちでいっぱいでした。地域住民も同じ気持ちだったはず」と一昨年の春の出来事を振り返る。

市は平成23年度からの「第五次白石市総合計画」の策定にあたって、平成22年に各地区で地域デザイン会議を開催。地域づくりの目標となる「まちづくり宣言」を定めた。齋川地区は「絆を強める・深めるまちづくり」をスローガンに、①さい遊館活動の推進、②甲冑堂や田村神社など史跡や歴史の伝承、③馬牛沼産直センターの発展を目標として掲げた。

「さい遊館は、地域で子どもたちを支えるための活動の呼び名です。取り組みは、4月から12月までの月曜日の放課後に、小学校でボールやバドミントン、折り紙やブロックなどを使って、子どもたちと一緒に遊ぶ

前 日に降り積もった雪がまだうっすらと残る昼休み。給食を食べ終わると、勢いよく校舎から飛び出す子どもたち。雪まじりの中、元気に遊ぶ子どもたちの声が学校に響く。

明治6年6月15日に開校した齋川小学校は、開校から144年となる平成30年4月、白石第二小学校と統合する。

学校を取り巻く環境

少子化が進む中、近年各地で小・中学校が統廃合するケースが増えている。近隣の市町でも小・中学校の統廃合が相次いでいる（下表参照）。

本市では、学校は地域社会の核となる存在のため、出来る限り存続させたいとの思いで、これまで統廃合を進めてこなかった経緯がある。しかし、本市の児童・生徒数は、昭和60年度の5,624人から、平成28年4月現在では2,566人と半分以下にまで減少している。

こうした状況から、平成25年8月に児童・生徒の社会性を育む上でより良い教育環境を創るため、「白石市小中学校の在り方検討委員会」が設置された。仙台大学の阿部芳吉学長を委員長に、保護者や地域住民、学校関係者など11人で構成。約1年

というものの。メンバーは民生委員児童委員などを中心とするスタッフが2班に分かれて行っています」と大槻館長は話す。

さい遊館活動は、事前に学校と打ち合わせをして日程を組む。子どもたちに活動予定表を配布し、出欠をとりながら行なっている。このように児童館や放課後児童クラブがない齋川地区では、子どもたちの放課後の活動を地域住民がボランティアで見守ってきた。

このほかにも地域の人が一緒に入って授業を行うものがあり、齋川小の特色ある体験学習として今も続いている。1・2年生はだんご刺し、3・4年生は笹巻きづくり、5・6年生はしめ縄づくりと分けて授業の中で体験する。齋川地区ならではの柿づくりは、現在は親子こころ柿づくり教室として全校児童で行っている。これらの活動には、齋川地区の更正保護女性会や高砂会といった老人会、民生委員児童委員のほか、ボランティア友の会にも協力してもらっている。

地域との絆を深める活動は、さい遊館活動だけではない。平成14年5月から行われてきた小学校と地域住民との合同運動会もそのひとつ。「昔は運動会の日まで各地区で練習会をやった

6カ月の検討の後、適正化の基本的な考え方（基準）を取りまとめ、平成27年2月に教育委員会へ答申を提出した。この答申を受け、教育委員会は「児童・生徒の教育のためにどのような学校が最適であるか」を前提に検討を重ね、その結果、基準に該当しない学校は統廃合を進める考えを示した。

本市では、平成30年春の齋川小を皮切りに、学校統廃合の動きが進んでいく。

齋川小の全校児童数は、昭和7年度の378人をピークに、平成28年度には19人にまで減少している。複式学級はというところ、平成16年度に4・5年生を対象に始まり、平成24年度には全ての学年が対象となっている。また、平成27年度には1年生の入学がなかったため、入学式が行われなかった。

年度	市町名	統合前	統合後
H21	角田市	北角田中学校 西根中学校	北角田中学校
		角田小学校 小田小学校	
H23	村田町	村田第一小学校	村田小学校
		村田第三小学校	
		村田第四小学校	
		村田第五小学校	
		丸籠中学校	
H24	丸森町	丸森東中学校 丸森西中学校	丸森中学校
		大内中学校	

り、リハールとして総練習をやったりした時期もありました。見所は、婦人防火クラブの女性たちと子どもたちが一緒に踊る白石音頭です。齋川地区民運動会の白石音頭は昔ながらの振り付けなんです。運動会は、子どもたちの頑張る姿を見ることができて大人たちは元気をもらっています」と大槻館長は笑顔のぞかせる。

また、夏祭りでは盆踊り大会を開催。会場となる齋川小の校庭にやぐらを組んで太鼓の演奏に合わせて踊る。この時期は齋川に帰省した人たちも集まり、とても賑わうという。秋には、子どもたちの作品と地域住民の趣味の作品を公民館に一同に展示する。同じ日に、齋川小の校庭ではグラウンドゴルフ大会も開催。グラウンドゴルフ大会では大人と子どもが一緒にプレーして交流を深めている。

大槻館長は、これらの活動を、平成25年に白石市青少年健全育成市民のつどいの中で「子どもたちをささえている齋川の大人たち」と題して紹介し、市の特色ある学校づくりとして教育委員会研究に指定された。

「学校が統合された後、子どもたちと地域との活動が存続できるのか」大槻館長は心配げな表情を浮かべた。